

出向く営農レポート

日進地区 ～キャベツの防除～



中部営農センター
重松 和樹

今回訪問したのはキャベツを栽培している福満さんです。福満さんは昨年度からキャベツの栽培を始め、産直へ出荷しています。高品質のキャベツであったため、今年度は給食センターへの出荷を提案し、2月に定植を行いました。福満さんは農薬の使用回数をできる限り減らすことにこだわっており、防虫ネットをかけ、葉を一枚一枚確認しながら害虫対策をしています。生育は順調で、このまま出荷まで大きく球が肥大してくれれば完成と思っていた最中の5月上旬、キャベツに異変が発生してしまいました。



キャベツを確認すると、白くかすれたような症状が出ていたため、病気を疑い、葉を観察してみるとアザミウマが発生していました。アザミウマは1.3mm前後のとても小さい虫で、ネットをかけていても風の強い日などには網目から侵入してきます。結球内部に侵入して食害し、品質が著しく低下するため、出荷できなくなってしまいます。

そこで今回はアザミウマの対策としてモスピランを散布するように指導しました。また展着剤の「まくぴか」を併用すると、より効果的な防除が行えることを説明しました。



モスピラン
顆粒水溶剤



まくぴか



一週間後に再訪問しキャベツの葉を確認した所、アザミウマの姿はすっかりなくなっており、とてもきれいで美味しそうなキャベツになっていました。6月から収穫し、給食センター等への納品を行います。



圃場内や周辺に雑草がある場合や、タマネギやネギなど発生源が近くにある場合などに、除草を徹底するのも対策のポイントとなります。

